

みんなちがって みんなしだい

鹿児島市には、山や田んぼ、畑、海、火山などさまざまな自然環境があります。
それぞれの場所に生きものが暮らしていて、他の生きものとかわりながら暮らしています。
さて、下のフクロウの命を支えているのは、いったいどれだけの生きものでしょうか。
生きものどうしの「つながり」を考えてみましょう。

草や木もたくさんの種類があって、
雑木林や竹林などいろいろな環境
があるから、さまざまな生きものが
暮らすことができます。

フクロウやキツネ、タヌキなどが
小鳥や動物の死骸を食べるよ

鳥たちが昆虫を
食べにくるよ

鹿児島市でこれまでに確認
されている動植物は、
7,000 種以上います。

カマキリやクモなどが
チョウを食べるよ

チョウは成虫になったら
花の蜜を吸いながら
花粉を運ぶよ

同じ種でも、色や模様など少し
ずつちがっています。この“ちがいが”
があることで環境が変わっても
生き残ることができます。

タヌキやアナグマが
木の实を食べたタネを運ぶよ

大きく育った木や草の
落ち葉や枯草がたまると

落ち葉や枯草は
土の中のミミズや
ゲンゴムシなどが食べるよ

土の中にはヒメシやセンチュウ
などの小さな生きものがいて、
落ち葉や草を細かくしているよ

タネの入ったウンチは
コガネムシが食べたり、
その幼虫の工事で
なったりするよ

落ち葉や草、さらに
ウンチや動物の死骸は
微生物がもっと細かくして
栄養ある土を作っているよ

土の栄養のおかげで
タネが芽生え育つよ

植物がぐんぐん育ち、
生きものたちのエサや
産卵場所になっているよ

チョウは決まった
植物の葉っぱに
たくさん卵を産むよ

幼虫は葉っぱにかくれて、
葉っぱを食べるよ

「生物多様性」とは、生きものたちの豊かな個性と
つながりのことです。

地球上の生きものは38億年という長い歴史の中で、さまざま
な環境に適応して進化し、3,000万種ともいわれる多様な
生きものが生まれました。これらの生きもの
は一つひとつに個性があり、そのすべて
が支えあって生きています。



かごしま
生きものラゴ



生物多様性には、「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺
伝子の多様性」の、3つのレベルの多様性があるとされてい
ます。

出典：かごしま生きものラゴ

生き物を探しに行ってみよう！



昆虫博士が教える！
虫の見つけ方

鹿児島昆虫同好会
なかみね あつこ
中峯 敦子先生

身の回りには、たくさんの
昆虫が暮らしています。でも
昆虫は、人の気配に敏感で、
すぐ逃げてしまいます。昆虫
が集まりそうな場所…例え

ば、花や虫食いの葉を見つけたら、そっと近づい
てしゃがんでみましょう。しばらくすると隠れてい
た昆虫たちが、顔を出してくれます。食べる植物
が決まっている昆虫もいるので、植物が分かったら、
そこで暮らす幼虫や卵を見つけれられるかもしれませ
ん。昆虫の目線になって眺めてみると、昆虫の暮
らしが見えてきますよ。

生きものたちは、食べ物、隠れ家、天敵、見た目など
がちがいます。この“ちがいが”あることで、生きもの
たちはさまざまな環境の中から自分が住みやすい環境
を見つけ、そこに住む他の生きものと関わりを持ちなが
ら暮らしています。それは自然豊かな森だけではなく、
校庭の花壇や家の植木鉢の中にも必ず生きものど
うしのつながりがあります。みんながちがうからこそ、
多様な環境に適応することができています。みんなちが
ってみんないい。今いる場所からちょっと周りを見わた
してじっくり観察してみてください。きっと素敵な出会いが
ありますよ！